

知泉書館

出版案内

2024.8 ver. 63

新刊

ヨーロッパ思想史入門 歴史を学ばない者に未来はない

パイデイア (中) ギリシアにおける人間形成
〔知泉学術叢書31〕

教理講話 〔知泉学術叢書32〕

デカルト小品集 「真理の探求」「ビュルマンとの対話」
ほか 〔知泉学術叢書33〕

ヘーゲル全集 第6巻 イェーナ期体系構想Ⅱ 論理学・
形而上学・自然哲学 (1804/05)

マックス・シェーラー 思想の核心 価値・他者・愛・
人格・宗教

ボーヴォワールとサルトル 実存思想論集 XXXIX (39号)

経済学史研究 66巻1号



Ad fontes Sapientiae

〒113-0033 東京都文京区本郷1-13-2
Tel: 03-3814-6161 / Fax: 03-3814-6166
<http://www.chisen.co.jp>

*表示はすべて本体価格です。消費税が別途加算されます。
*これから刊行するものは時期・タイトル等を変更する場合があります。

ヨーロッパ思想史入門 歴史を学ばない者に未来はない

金子晴勇著

ヘレニズム、ヘブライズム、ゲルマニズムを三つの柱としたヨーロッパ文化の思想について、難しい概念を読み解き、古代から現代まで人々がどのように日常と思索の世界を生きていたのか紹介する。さらに文学作品を通してヨーロッパ思想の多様性も学べる。

【目次】 思想史の主流 ヨーロッパ思想の三つの柱 キリスト教とギリシア文化との交流 アウグスティヌスと世紀の回心 中世思想の意義 一二世紀ルネサンスとヨーロッパ的愛の誕生 ルネサンスと宗教改革 近代世界の三つの理念 デカルトとバスクル啓蒙主義と敬虔主義 カントとヘーゲル シュティルナーとキルケゴール—唯一者と単独者 人権思想とファシズム ヨーロッパのニヒリズム 文学作品からヨーロッパ思想を理解する



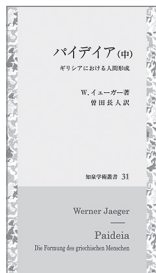
ISBN978-4-86285-412-4
四六判276頁・2300円

パイデア (中) ギリシアにおける人間形成

W. イェーガー著／曾田長人訳 〔知泉学術叢書31〕

ヨーロッパ文化が長く模範としてきたギリシア古典古代は、国家のメンバーをどのように教育することを目指したのか。ギリシア人の教養と理想的な人間像が相互に作用しつつ形成される経緯を描いた、古典的名著の待望訳。本巻では、プラトンの教育哲学を扱う。

【目次】 第三部 偉大な教育者と教育体系の時代 前4世紀 パイデアとしてのギリシアの医術 ソクラテス 歴史の中のプラトン像 プラトンによるソクラテスの小対話篇:哲学的な問題としてのアレテー 『プロタゴラス』:ソフィストのあるいはソクラテス的なパイデア? 『ゴルギアス』:真の政治家としての教育者 『メノン』:知識の新しい概念 『饗宴』:エロス 『国家』



ISBN978-4-86285-408-7
新書判846頁・6500円

教理講話

〔知泉学術叢書32〕



ISBN978-4-86285-410-0
新書判552頁・6300円

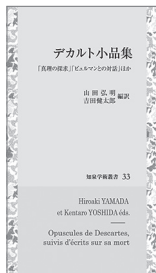
新神学者シメオン著／大森正樹・谷隆一郎訳

10-11世紀に活躍したビザンティンを代表するシメオンが、修道士たちに向けて靈性を高めるために行った膨大な講話の数々を全訳。神との対話を通して生み出されたシメオンの言葉は深い知恵に裏付けられ、現代のわれわれにも宗教を超えた示唆を与える。

【目次】 はしがき(大森正樹) 第1講話・愛について 第2講話・至福を通してキリストへ 第3講話・修道誓願への忠実 第4講話・悔恨の涙 第5講話・悔い改めについて 第6講話・敬虔者シメオンの模範 第7講話・家族への愛着について 第8講話 完全な愛について、そしてその働きは何であるか ～ 第36講話 神への感謝。靈的祈りと照らし 解題・シメオンに見る神秘主義のすがた(大森正樹) あとがき(谷隆一郎)

デカルト小品集

「真理の探求」
「ビュルマンとの対話」ほか



ISBN978-4-86285-411-7
新書判372頁・4000円

山田弘明・吉田健太郎編訳

〔知泉学術叢書33〕

デカルトの『真理の探求』『ビュルマンとの対話』など、小さいながら主要著作にも劣らない独自の内容をもつ小品と関連資料を集めた。さらに訳者による各テキストの詳細な解題と最新研究を反映した「デカルト小伝」、基本文献をまとめた「文献案内」も収録した。

【目次】 自然の光による真理の探求 ビュルマンとの対話 小品 A 法学士論文／剣術論／良識の研究／バルザック氏『書簡』所見／機械学／工芸技術学校の計画／演劇の計画 小品 B 遺稿目録／デカルトの死をめぐる書簡と報告(デカルトから兄たち宛書簡／シャニュウからエリザベト宛書簡／ソメーズの息子からプレギー宛書簡／ヴレンからピソン宛書簡, 他) 解題 デカルト小伝 文献案内

ヘーゲル全集 第6巻

イェーナ期体系構想Ⅱ 論理学・
形而上学・自然哲学 (1804/05)

責任編集 座小田豊

(第12回配本)

のちの『精神現象学』、『エンツュクロペディー』で展開する学の体系化へと繋がっていく、独創的で豊かな思索の発展の原点を示す「体系構想」。「無限性」などのヘーゲル哲学の重要概念を発展的に展開した1804/05年の手稿と、詳細な解説、充実した索引を収録。

【目次】【論理学】 [I 単一な関係] II 相関関係 III 比的関係 形而上学 I 諸原則の体系としての《認識》 B 客観性の形而上学 C 主体性の形而上学 自然哲学 [I] 太陽系 II 地球系 補注 付録 解説



ISBN978-4-86285-413-1
菊判824頁・10000円

マックス・シェーラー 思想の核心

価値・他者・愛・
人格・宗教

金子晴勇著

シェーラーはカント人間学を批判し、現代人間学の基礎となる新たな人間学を確立した。人間科学の諸成果を導入し、理性だけに偏らない心情や情緒、間-主観的な「愛」の領域と人格、道徳など、生ける真理の探究者として人間を総合的に考察。実存思想が注目され、見過ごされてきたシェーラーの全体像を紹介する。

【目次】時代と学問 価値倫理学とは何か 他者認識の現象学 身体シンボル機能 人格と共同体 情緒的生の現象学 愛の秩序とその惑乱 ルサンティマンとキリスト教の愛 宗教の現象学 一霊性・悔恨・良心の現象学的考察 現象学的人間学の確立 付論一・シェーラーとハイデガー 付論二・シェーラーの間主観性学説



ISBN978-4-86285-409-4
四六判266頁・2300円

ボーヴォワールとサルトル

実存思想論集
XXXIX (39号)

実存思想論集 XXXIX

ボーヴォワールとサルトル

実存思想協会編

ISBN978-4-86285-966-2
A5判224頁・2000円

実存思想協会編

【目次】 ボーヴォワールとサルトル 趣意文(小島優子)/アンチ・アンチ・エイジング—ボーヴォワール「老い」を読む(上野千鶴子)/サルトルの晩年様式—実存と老い(澤田直)/哲学における老いについて—ボーヴォワールとヘーゲルを比較して(小島優子)/サルトルの「老い」—晩年の三つの対話から(竹本研史) 応募論文 ゲオルク・ジンメル のニーチェ「高貴性」解釈—社会的実存と人類的理想(藤谷正太)「形式的告示」と「本質的に偶因的な表現」—事実的生の三つの意味的方法的使用(山崎諒)/九鬼周造における「実存」の問題—オスカー・ベッカーの「被担性」を手がかりに(上田瑞季)/レヴィナスの「ユダヤの実存」論—「現存在か」か」という問題系から(若林和哉) 書評 鈴木祐丞著『〈実存哲学〉の系譜』(須藤孝也)/編集・校閲 伊藤直樹・大石学・的場哲朗・三浦國泰『ディルタイ全集 第十一巻 日記・書簡集』(山本英輔)/秋富克哉著『ハイデッガーとギリシア悲劇』(関口浩)/嶺秀樹著『絶対無の思索へ』(秋富克哉)/太田裕信著『西田幾多郎の行為の哲学』(相楽勉)/鬼頭葉子著『動物という隣人』(茂牧人)/梶谷真司著『問うとはどういうことか』『書くとはどういうことか』(川崎惣一)

経済学史研究 66巻1号

The History of Economic Thought

経済学史研究

66-1

目次
 マーシャルにおけるリカードウ経済学方法論の受容—オックスフォード理想主義者たちからの影響(松山直樹) ネオリベリズムの戦間期日本における一起源—自由通商協会の思想史(岩木雅宏) English Translation Series: Japanese Economic Thought <3> Hajime Kawakami, *Fundamental Principles of Economics* (1928), Preface, Introductions to Parts One and Two(河上肇『経済学大綱』序, (上)序説, (下)序説), with Introduction by Shutaro Muto (Translated by Robert Chapeskie and Shutaro Muto) 第8回経済学史学会賞授賞作 経済学史学会賞選考委員会より 第21回経済学史学会研究奨励賞授賞作 経済学史学会研究奨励賞選考委員会より Notes and Communications A Landmark in Hume Studies in Economic Thought: Margaret Schabas and Carl Wennerlind's A Philosopher's Economist: Hume and the Rise of Capitalism. (Tatsuya Sakamoto) 書評 (内藤敦之/Mark Metzler/袴田兆彦/Masazumi Wakatabe/矢島シヨーン/村井明彦/小野塚知二/山根卓二/瀧澤弘和/柳沢哲哉/鍋島直樹/伊藤宣広/原谷直樹/笠井高人/長津十)

2024年7月
July 2024

経済学史学会

The Japanese Society for the History of Economic Thought

ISBN978-4-86285-967-9
B5判128頁・3000円

経済学史学会編

【目次】 論文 マーシャルにおけるリカードウ経済学方法論の受容—オックスフォード理想主義者たちからの影響(松山直樹) ネオリベリズムの戦間期日本における一起源—自由通商協会の思想史(岩木雅宏) English Translation Series: Japanese Economic Thought <3> Hajime Kawakami, *Fundamental Principles of Economics* (1928), Preface, Introductions to Parts One and Two(河上肇『経済学大綱』序, (上)序説, (下)序説), with Introduction by Shutaro Muto (Translated by Robert Chapeskie and Shutaro Muto) 第8回経済学史学会賞授賞作 経済学史学会賞選考委員会より 第21回経済学史学会研究奨励賞授賞作 経済学史学会研究奨励賞選考委員会より Notes and Communications A Landmark in Hume Studies in Economic Thought: Margaret Schabas and Carl Wennerlind's A Philosopher's Economist: Hume and the Rise of Capitalism. (Tatsuya Sakamoto) 書評 (内藤敦之/Mark Metzler/袴田兆彦/Masazumi Wakatabe/矢島シヨーン/村井明彦/小野塚知二/山根卓二/瀧澤弘和/柳沢哲哉/鍋島直樹/伊藤宣広/原谷直樹/笠井高人/長津十)

人間学入門 自己とは何か

金子晴勇著

ISBN978-4-86285-399-8 四六判270頁・2300円

人間学は広範で具体的な世界との関連のなかで全体像を構築する。自己認識の視点から、身心論を分析し、ヨーロッパ思想史の固有性、古典などの作品を通して「汝自身を知る」意味を明らかにする。また人間学の歴史や具体的な方法論とその意義も分かりやすく紹介。

道しるべ 古の師父たちにならう

谷隆一郎著

ISBN978-4-86285-402-5 四六判294頁・2700円

東西の神学に通暁する著者が聖書や教父の言葉の意味を丁寧に説明し、人生を善く生きるための知恵を示してくれる命の書。古典の言葉を厳選し、貴重な意味を簡潔に紹介し現代に蘇らせる。空海や世阿弥、道元などわが国の知性が同じ境地で生きたことも紹介される。

カント政治哲学のコンテクスト [知泉学術叢書30]

ライダール・マリクス著／加藤泰史監訳 ISBN978-4-86285-405-6 新書判366頁・4000円

カントの政治哲学に関わる論争的な言説を追究し、18世紀ドイツにおける公共圏の形成についてカント哲学の貢献を検討する。自由の権利の正当化、平等の扱い、国家の権威に関わる彼の法哲学と政治哲学の解明を通して近代哲学創始の瞬間をも明らかにする。

スキュンダルの狭間で カント形而上学への挑戦 『純粹理性批判』とルソーの影響

ジェレマイア・オルバーク著

ISBN978-4-86285-406-3 A5判328頁・4500円

カント『純粹理性批判』はルソーから強い影響を受けつつ完成された。カント哲学の前批判期から『純粹理性批判』の成立、その論理構成の全体像にまで踏み込んで、人間理性の限界と対抗性について、著者自身による思想を率直に表明した、他に類書のない意欲作。

意識と〈我々〉 歴史の中で生成するヘーゲル『精神現象学』

飯泉佑介著

ISBN978-4-86285-407-0 菊判444頁・6000円

難解なことに加え、ヘーゲル自身の思索の展開や体系との関連から不完全な著作と言われることもある『精神現象学』をヘーゲル哲学体系の中に位置付けながら、「学」としての哲学の歴史的生成と正当化」というモチーフのもとに包括的に解釈した本格的業績。

否定神学と〈形而上学の克服〉 シェリングからハイデガーへ

茂 牧人著

ISBN978-4-86285-398-1 A5判290頁・4500円

シェリングの考察からハイデガーのシェリング解釈をへて、ハイデガーの真理論を論じる。特にシェリングの無底の理解から、ハイデガーの真理論における深淵／脱根底の働きを導出し、理性では理解できない否定神学的省察により〈形而上学の克服〉を遂行した。

進化の中の人間 ヒトの意識進化を哲学する

坂本 充著

ISBN978-4-86285-403-2 四六判310頁・2700円

生命体は複製と代謝、適応機能を備えて進化を促し、そのメカニズムが進化を支え新たな存在を生み出す。進化の中で人間は独自の様相を示し、意識をもち思考する生き物になった。先端科学の知見を活用し「進化」を通して人類の未来に新たな知恵を提供する。

渡来人陳元賛^{ちんげんいん}の思想と生涯 江戸期日本の老子研究

李 麗著

ISBN978-4-86285-400-1 A5判344頁・6500円

江戸時代初期、多くの明人が王朝交代の混乱を避け、来日した。本書は、尾張藩に仕えた渡来明人、陳元賛に焦点を当て、主著『老子経通考』の分析を通し、近世日本思想史でも未開拓な老子思想の受容を解明する。日中文化交流史にも一石を投じる画期的業績である。

名婦伝 [ラテン語原文付] [知泉学術叢書29]

ボッカッチョ著／日向太郎訳

ISBN978-4-86285-401-8 新書判746頁・6400円

聖書をはじめ、ギリシア神話やホメロス、タキトゥスなどを典拠とし、古代から同時代に至る106人の波乱に富んだ女性たちのエピソードを生き生きと描き出す。ラテン語原文を全文収録し、ルネサンス研究の基礎を築く。〈イタリア・ルネサンス古典シリーズ1〉。

移動する地域社会学 自治・共生・アクターネットワーク理論

伊藤嘉高著

ISBN978-4-86285-404-9 菊判328頁・4000円

様々に変容する地域社会の連関を、社会学はいかに記述できるか。本書はアクターネットワーク理論によって、コミュニティの多様な動態を描き出す画期的業績である。社会学の新たな研究法に挑むとともに、町づくりや防災の取り組みにも豊かな着想を提供する。

哲学 第75号 戦争と暴力／中国哲学の可能性

日本哲学会編

ISBN978-4-86285-965-5 B5判422頁・1800円

経済学史研究 65巻2号

経済学史学会編

ISBN978-4-86285-964-8 B5判192頁・3000円

ヘーゲル全集 第8巻2 精神現象学Ⅱ 責任編集 山口誠一

パイデア(下) ギリシアにおける人間形成 [知泉学術叢書] W. I. イェーガー著
曾田長人訳

アラビア哲学からアルベルトゥス・マグヌスへ 一神教的宇宙論の展開 小林 剛著

13世紀の自己認識論 アクアスパルタのマテウスからフライベルクのデイトリヒまで [知泉学術叢書] F. X. ピュタラ著
保井亮人訳

ルネサンス教育論集 [知泉学術叢書] ヴェルジェリオ／ブルーニ著
ピッコロミニ／グアリーノ著
加藤守道・伊藤博明・河合成雄訳

バークリ 記号と精神の哲学 竹中真也著

ヘーゲル『精神哲学』の基底と前哨 栗原 隆著

シェリング自然哲学とは何か グラント『シェリング以後の自然哲学』によせて 松山壽一著

シェリング講義 同一哲学の鍵としての「反復的同一性」 [知泉学術叢書] M. フランク著／久保陽一・岡崎秀二郎・飯泉佑介訳

意味と時間 フッサールにおける意味の最根源への遡行 高野 孝著

山田晶 倫理学講義 (全五巻) 山田晶著／小浜善信編

中國古代の淫祀とその展開 工藤元男著

中国の秘密結社と演劇 田仲一成著

中国書道史 辻井京雲著／下田章平編

変革する12世紀 テクスト／ことばから見た中世ヨーロッパ 岩波敦子著

ソ連軍政期—建国初期, 北朝鮮の内部文書集 第1巻 木村光彦編訳・解説

花と自己変容 世阿弥の謡曲と能楽論を読む 鈴木さやか著

和田三造の生涯 加藤耀子著

中世思想研究 第66号 中世哲学会編

西洋中世研究 第16号 西洋中世学会編